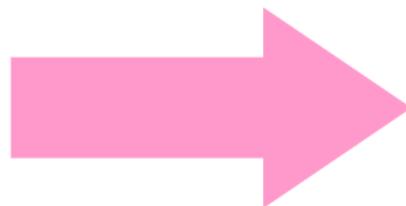


福祉とは

ふだんの
くらしを
しあわせに



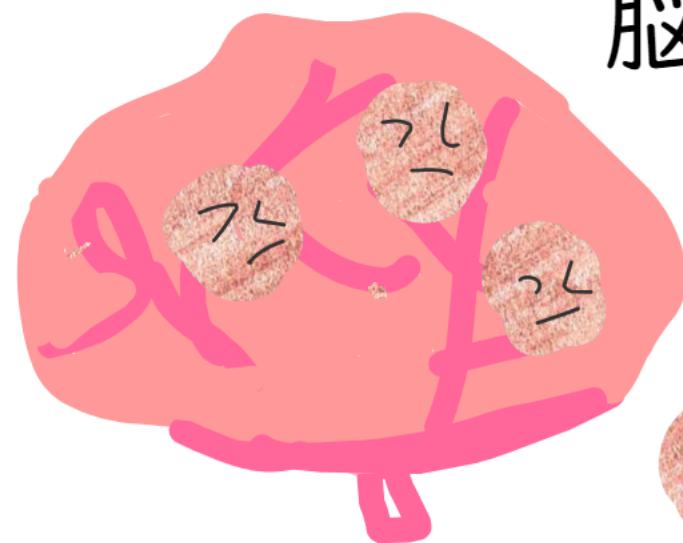
ふくし

認知症（にんちしょう）とはなにか？

さまざまな脳の病気により、脳の神経細胞（しんけいさいぼう）の働きがじょじょに低下し、認知機能（にんちきのう）が低下し、社会生活に支障（ししょう）をきたした状態（じょうたい）をいう。

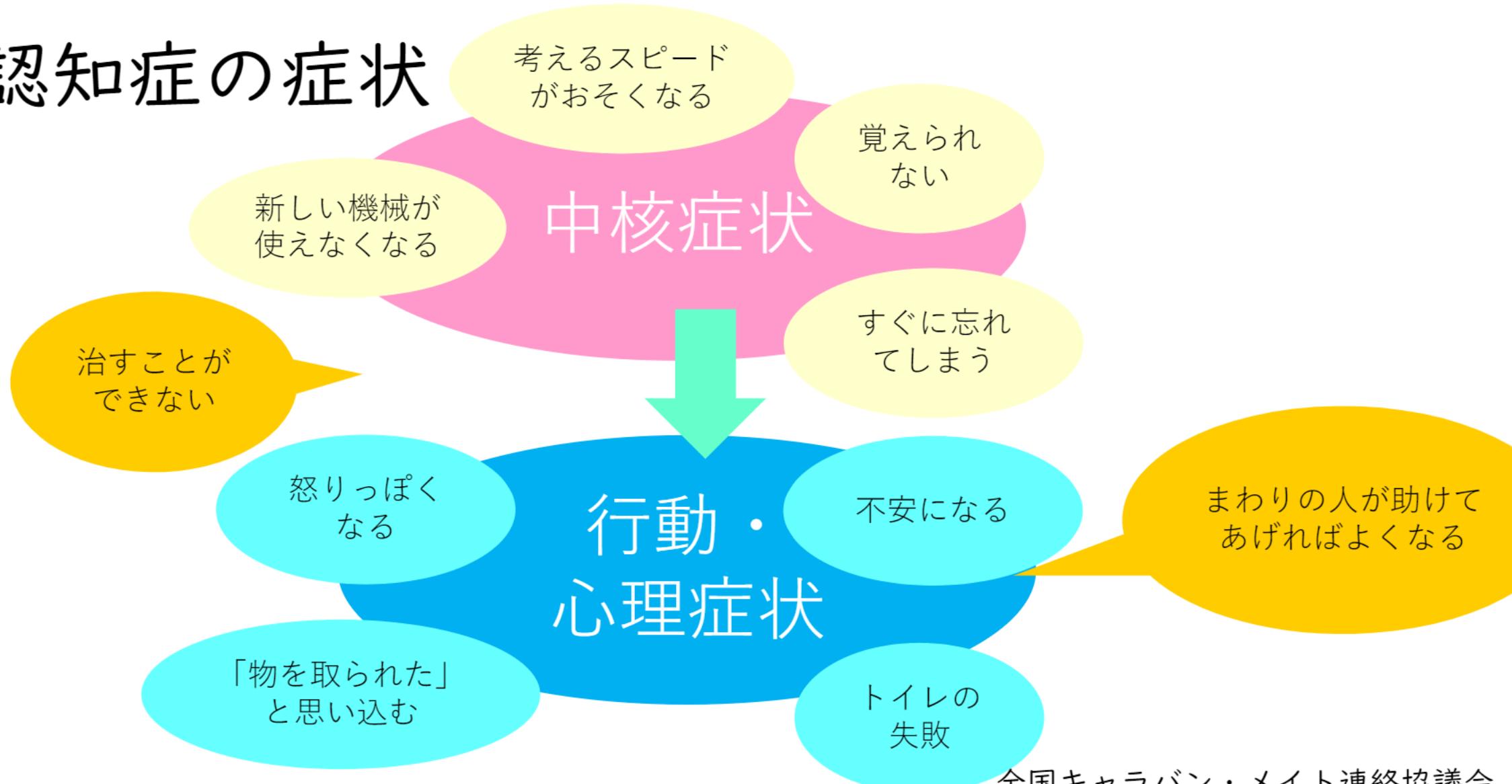
脳の一部が死んでしまったり、
脳がちぢんでしまう病気がある。

脳の様子



神経細胞

認知症の症状



認知症の人をサポートするには？

してはいけないこと

- ✗ どなったり、しかりつけたりする
- ✗ 失敗したことをせめる
- ✗ 間ちがいをしてきする
- ✗ 行動を急がす
- ✗ 行動をせいげんする、何もさせないようにする



イラついちゃうとつい
しちゃいそうなことだ
から気を付けよう



認知症の人をサポートするには？

- ほめる、かんしゃする、あいづちを打つ
- 放置しない、ストレスを与えない
- かけがえのない、そんざいだとにんしきしてもらう
- 真心と思いやり



認知症の人を サポートする人の気持ち



私の母は、認知症です。
中核症状で自分のことを忘れ
てしまったら悲しいと思って
います。
けれど、たまに強くいってし
まうことがあるのでその時は
いつもこうかいしています。



担任の先生に
インタビューしたよ

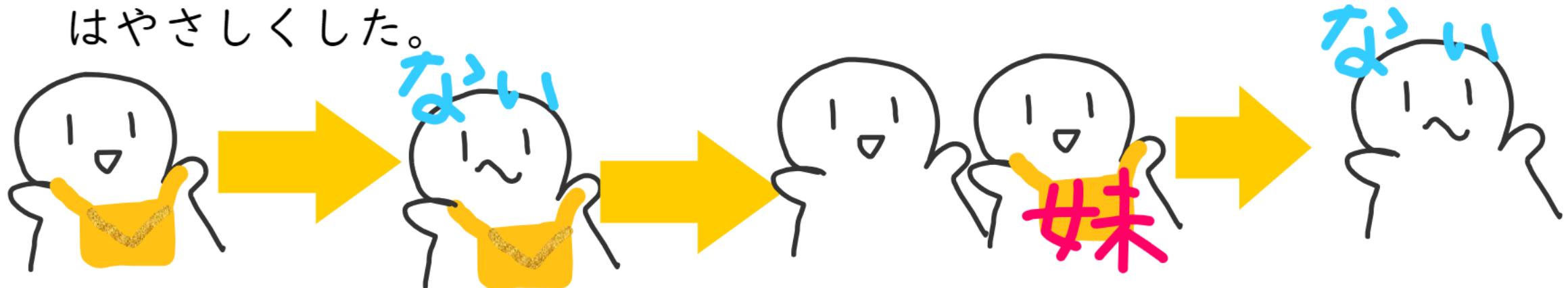
行動・心理症状を遅
めればいいんだ！



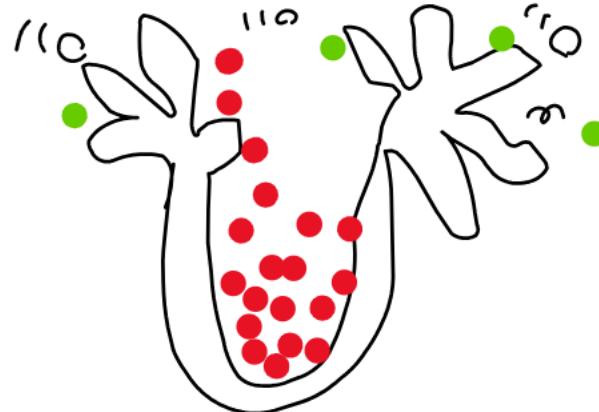
認知症の母を持つ先生のエピソード

認知症の人の症状

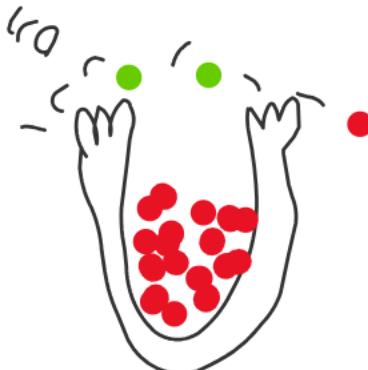
いろいろな物が「ないない」といったのでバッグを一つにした。そしたら、バッグをこしにつけてるのに、「ないない」といったので、先生の妹がバッグをあずかった。そしたら、妹がバッグをあずかったことを忘れ、また「ないない」した。けれど、妹さんはやさしくした。



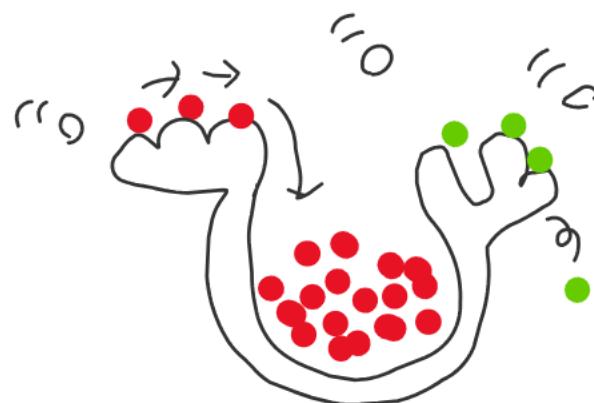
記憶のつぼ



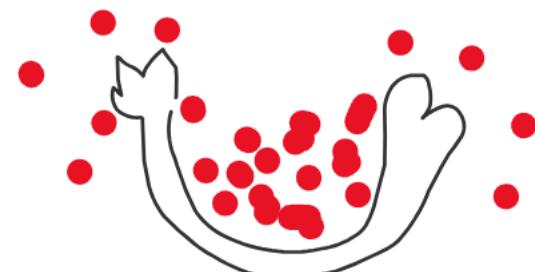
①子供と若い人



③認知症の人



②お年寄り



④認知症が進んだ人



大切な情報



感心のある情報

①子供や若い人

イソギンチャクの手がすばやく動いて、大切な情報を記憶のつぼにいれる。必要な時にすばやく取り出せる

②お年寄り

イソギンチャクの手の動きが弱くなって大切な情報を記憶のつぼに入れるのに時間がかかる。

③認知症の人

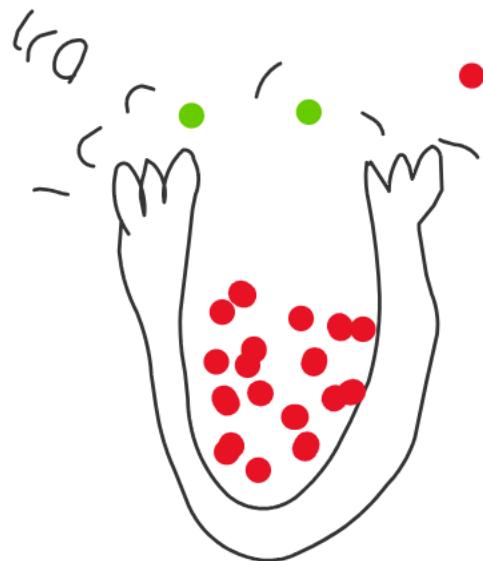
病気のため、イソギンチャクの手がほとんど動かなくなり、大切なことも記憶のつぼに入れることができない

④認知症が進んだ人

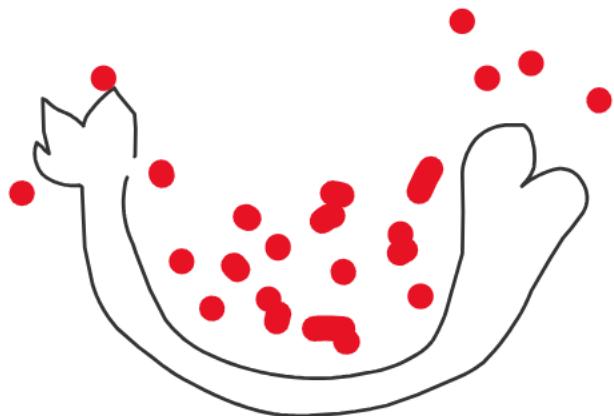
記憶のつぼに入れておいた、大切な記憶も記憶から消えてしまう

全国キャラバン・メイト連絡協議会
『認知症ってなあに?』より

記憶のつぼの様子を見て 自分たちにできること



認知症初期



認知症が
進行している状況

- 大切な情報
- 感心のある情報

認知症の人はわざと認知症になったわけじゃないから、記憶のつぼに私たちが話した、大切な情報を忘れてしまうかもしれないから、前に話した、真心と思いやりを持ってせっしたいと思います。また、進行して、今まで覚えていた、大切な情報を忘れてしまってもきついわないようにしたいと思います。

自分たちにできること

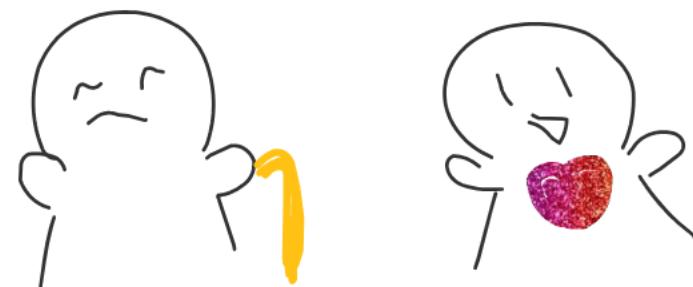
入門

どんな人でも（認知症以外の人でも）やさしくせっする
自主的に声をかける



初級

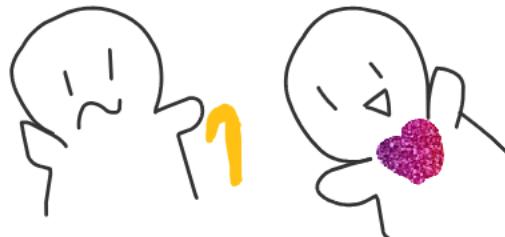
困っている人にやさしく声掛けをする



自分たちにできること

中級

今は大丈夫だけどちょっと不安そうな人に自主的に声をかける



上級

自主的に声をかけ、相手の気持ちを考えてその人に合った行動をする

駅の場所を教
えてください

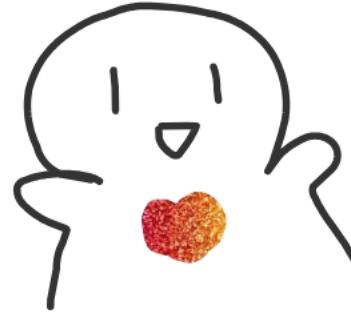


認知症の人

時間があるので
駅まで一緒に行
きましょう



自分たちの考え



一学期から福祉（ふくし）の高齢者の勉強をして、おじいちゃんとおばあちゃんの大変さが分かったから困っていたら、自分から声をかけてお手伝いしたいと思ったし、町をみるとやっぱりスルーする人が多いなと思いました。だから、高井戸小学校のみんなやその保護者様（ほごしゃさま）にも高齢者の大変さを伝えて実行してほしいと思いました。みんなもできることを少しずつ、上級福祉マスターになろう



お手伝いしま
しょうか？



ありがとう

平穏な世界